

◇鈴木正洋君

○議長（澁谷俊二君） 次に、3番、鈴木正洋君の一般質問を許可いたします。鈴木正洋君、登壇願います。

（3番 鈴木正洋君 登壇）

○3番（鈴木正洋君） 通告に従いまして一般質問をいたします。

私は、六郷高校の学校運営協議会の委員として、また六高サポーターの一員として六郷高校の魅力を高める活動に取り組んでいます。入学者の減少が続く六郷高校ですが、現在の生徒数は3年生63人、2年生52人、1年生44人となっており、存続に関して黄色信号がともった状態にあります。「高校魅力化による地域づくり」がテーマのレポートに、「高校の存在が地域社会の存続や活性化のためには欠かせない」とありました。高校がなくなれば家族ぐるみの人口流出の引き金となり、子育て世代からは居住対象地域として見向きされなくなり、人口流出がさらに加速して地域崩壊へとつながります。

島根県立隠岐島前高校の魅力化に取り組んだ岩本 悠氏は「高校は県立でも、町当局を含めた地域総がかりでの取組が必要」だと述べています。六郷高校の存続に向けて美郷町は何ができるのか、これよりお伺いいたします。

1番、六郷高校魅力化支援員の配置を。

六郷高校のことを考える人たちが集まって話をすると様々な提案がなされるものの、それが実行に移されることはあまりありません。仕事として時間をかけて取り組める人がいないからであり、その点が活動を進めていく上で最大のボトルネックになっています。学校の魅力を高め、その成果を広く発信し、生徒の募集につなげていく実行力を持った専門職員、（仮称）六郷高校魅力化支援員が必要だと考えます。

高校の教職員は自分の専門分野の深い知識はあっても地域とのつながりが弱いため、学校と地域をつなぐコーディネーターの役には不向きです。また、営業や宣伝などに取り組んだ経験がなく、生徒の募集に関する戦略を描けないのが実情です。もとより多忙であり、県からの辞令を受けて数年で異動しなければならない身の上の人に今以上の取組を求めることは酷でもあります。

宮崎県高千穂町は役場職員の1人を「高千穂高魅力向上コーディネーター」として選任しています。岩手県住田町は教育コーディネーターを採用し、住田高校の支援強化のために活用しています。どちらも町に一つだけの県立高校であり、六郷高校のある美郷町と置かれている状況はよく似ています。美郷町も六郷高校魅力化支援員を配置すべきと考えますが、見解をお伺いします。

2番、「地域みらい留学」に取り組む考えは。

内閣府が地方創生の中で進める「高校生の地域留学の推進のための高校魅力化支援事業」を活用して「地域みらい留学」に取り組むところが増えています。東北地方の中から探してみると岩手県では先述した住田町の住田高校など6市町村7高校、山形県は遊佐町の遊佐高校など2町2高校、福島県では2町2高校。青森県と宮城県、秋田県では、まだ取組がありません。早くから始めたところでは1学年20人以上の留学生を集めている高校もあります。

高校3年間を対象期間とする「地域みらい留学」に加え、昨年からは2年生のときだけ留学する「地域みらい留学365」も始まりました。コロナ禍で窮屈な生活を送っている都会の人たちにとって、地方への関心は高まっていると考えられます。地域との結びつきが強い六郷高校は多様な人間との関わり合いによる生きた教育を実現できます。伝統行事への参加や自転車競技への取組など、地域にある資源を有効活用すれば都会では得がたい体験を提供することができます。

地域留学は地元の生徒たちにとってもメリットがあります。狭い地域の中で閉じた人間関係となりやすいところに異なった背景を持つ都会からの生徒たちが交わることは、よい刺激となります。留学生の募集には東京の大田区や御田小などとのつながりも活用できそうです。内閣府の資料によると、魅力化に関わるコーディネーターの人件費などは補助金による支援が受けられるとあります。このように可能性の感じられる「地域みらい留学」に取り組む考えはあるのか、お伺いします。

3番、六郷高校に給食を提供する考えは。

町営の学校給食センターから県立高校に給食を提供している自治体があります。岩手県の住田町もその一つです。町外在住の生徒もサービスの対象に含まれるため、公費の使い道として公平性が問われる面もありますが、保護者にとってありがたい支援策であることは確かです。給食が出るのなら六郷高校を選ぼうと考える人もいると考えられます。仮に「地域みらい留学」で寮生活となった生徒たちのことを考えると給食を提供し、栄養のバランスを確保していくことも検討していかなければなりません。六郷高校へ給食を提供することについて、どう考えるのかお伺いします。

4番、美郷中学校の1年生を対象に六郷高校の1日体験入学を実施しては。

周囲から伝えられる不正確な情報と誤ったイメージにより六郷高校が敬遠されているとなれば問題です。平成29年に「六郷高校の未来を考える会」が行った高校選択に関するアンケート調査があります。六郷高校を選ばなかった理由をあぶり出すことを狙いに、自宅が六郷高校の近くであっても、ほかの高校を選んだ人たちを対象に調査を行いました。

県内の高校志願状況からは進学校以外の普通高校が生徒募集に苦戦している傾向が見てとれま

すが、これは学校の特徴と魅力が分かりにくいいためと考えられます。六郷高校の優位性を正確に伝えられればイメージもよくなると考えられます。あくまで将来の高校選択の目安と参考にすることを目的として、美郷中学校1年生を対象に六郷高校の1日体験入学を実施してはどうかと考えますが、見解をお伺いします。

その他、六郷高校の支援策についてのお考えがあればお聞かせください。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。教育長、登壇願います。

（教育長 福田世喜君 登壇）

○教育長（福田世喜君） ただいまの御質問にお答えいたします。

六郷高等学校は、町内唯一の高校として高等教育だけでなく多くの地域活動やボランティア活動に取り組み、地域の拠点校として広く町民に親しまれている学校であります。

その六郷高校はここ数年、入学者の大幅な定員割れが続いていることから募集定員が少なくなる可能性もあって学校の活力低下が心配されている状況です。そのようなことから六郷高校の将来にとって今が非常に重要な時期にあると認識しており、特に普通科の魅力アップをどのように図っていくのかと福祉科のすぐれた実践をどのように生徒募集に生かしていくのかなどが大きな課題であると考えております。

さて、1点目の御質問の六郷高校の魅力化支援員の配置についてであります。配置を検討するに当たっては、まず六郷高校が主体として学校の魅力化向上のためにどのような新たな取組をしようとするのかを明確にする必要があると考えます。そして、その新たな取組をするために地域の関係者にどのような協力を求めるのか、そのためには魅力化支援員が必要なのかどうか、必要とするならば魅力化支援員はどのような活動を想定するのかを明らかにしなければなりません。その上で、その魅力化支援員について、学校設置者である県教育委員会が予算措置できないかどうか検討課題になります。

以上のような事柄について、現状においては、主体である六郷高校の方針が明確に表明されておりませんので、その方針表明がまず必要であると考えております。よって、魅力化支援員については六郷高校の方針を確認した上で、その基本的な事柄について関係者で議論することが現在求められていることであると考えます。

2点目の「地域みらい留学」についてであります。この制度は議員御指摘のように内閣府地方創生推進室の「高校生の地域留学の推進のための高校魅力化支援事業」の中の一つであり、地方自治体が国からの補助金をもとに実施していくものであります。この事業に取り組むに当たっては、県教育委員会と六郷高校の推進に向けた明確な方針が重要であり、例えば魅力的な教育課

程の策定や寮などの宿泊環境整備等も大きな課題となります。

このようなことから、六郷高校の明確な実施希望や県教育委員会の取組支援決定がない中では「地域みらい留学」の実施は困難であると考えます。

3点目の六郷高校への給食を提供することについてであります。学校給食法によりますと学校給食は義務教育における児童生徒に栄養のバランスのとれた食事を提供することにより心身の健全な発達を促すことを目指して行われております。

このようなことから、町内小中学校の児童生徒に教育活動の一環として提供している給食を、県立高校であり、かつ町外の生徒も在籍している六郷高校へ提供することにつきましては、学校給食法の趣旨から外れるものであり、提供は困難であるものと考えます。

4点目の美郷中学校の1年生を対象にした六郷高校の体験入学の実施についてであります。体験入学の実施主体はあくまでも県教育委員会と六郷高校であります。県教育委員会と六郷高校が美郷中学校生徒を対象とした体験入学を計画し、町教育委員会に協力要請があった場合には協力について前向きに検討してまいります。

ただし、生徒の高校などへの進路につきましては、あくまでも個人の希望を尊重すべきことであり、その点に配慮していくことが必要であります。

5点目は六郷高校へのこれまでの町の支援策についてであります。六郷高等学校教育振興会への補助金による支援や、六郷高校生のインターンシップ受入れなどの地域における活動での支援、企業見学や企業説明会に参加する際の町有バスの使用支援、広報「美郷」や町ホームページに六郷高校の取組を掲載し、六郷高校の活躍を町内外に情報発信する支援などによって六郷高校の魅力度アップにつながるよう支援を行ってきております。

町といたしましては、今後もこのような支援を継続するとともに六郷高校や六郷高校関係団体との協議も踏まえて同校の支援に取り組んでまいります。以上であります。

○議長（澁谷俊二君） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）鈴木正洋君の再質問を許可いたします。

○3番（鈴木正洋君） 御答弁の中では六郷高校は大事であると、生徒減少に危機感を感じているというふうなことは、よく理解しました。

ただ、六郷高校からの要請がないためにいろいろと動けないというふうなお答えだったかと私は理解しました。この問題は教育だけの話ではなくてまちづくり全体に関わることですので、町から六郷高校に対して、もう少し町に要望、要望といいますか、積極的な要望を出してもいいんじゃないかと。出してくださいよと六郷高校に町から強く言うということが大事ではないかなと

思いますけれども、もっとですから六郷高校と町の意味疎通をよくして、支援要請を出していただきよということを六郷高校に言ってはどうかと思います、その点についていかがでしょうか。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。教育長、自席でお願いします。

○教育長（福田世喜君） ただいまの再質問にお答えいたします。

ただいまの御意見は受け止めて考慮していきたいと思います。ただ、私ども気をつけなければならないのは、六郷高校は県立高校であります。市町村の教育委員会が、その高校にこういふことをいふことを言い過ぎますと、県立高校にはやはり学校管理者としての立場を踏み越える形になることでの関係性の悪化問題が出てくることがあります。ですから、原則としては県立高校でありますので県教育委員会の方針とそれに基づく高校の立場を尊重して、町としては支援しますというスタンスが大原則であります。その点のことをわきまえながらということがありますので、そういうことに留意して、今後また支援については協議を高校等と行っていきたいというふうに思います。

○議長（澁谷俊二君） 再々質問ありますか。（「はい」の声あり）鈴木正洋君の再々質問を許可いたします。

○3番（鈴木正洋君） あとはですね、県に対する要望というのも考えていただきたいと思うんですが、岩手県などの事例を見ますと地元の高校をなくさないでくださいということで町の町長などが県の教育委員会に対して高校再編計画をどうかもう一度見直してくださいというふうな要望活動を行っている事例をよく目にします。その内容を見るとただなくさないでくださいというふうな言い方をしている例が多いのかなと私は捉えましたがけれども、今、高校の普通科についての在り方が問われている状態にあります。

文部科学省が示していますけれども、高校普通科、進学校以外の魅力がはっきりしないということで、例えば学際融合型ですとか地域探求型ですとか、そういう高校の在り方を見直していくというふうな方針も示されています。秋田県教育委員会の動きはちょっとあまり乗り気では、あんまり何か目立った動きはないように見受けられますけれども、やはり高校、地元にある普通高校の魅力アップということで、どうも魅力がはっきりしないと。普通高校の魅力、普通科の魅力アップが大切だということ、先ほど教育長もおっしゃっていましたがけれども、こういう再編案とかについても、県の教育委員会で積極的に取り組んでほしいというふうな県に対する要望というのも町のほうから積極的に上げていくべきではないかなと、そのように考えます。ですので、県の先手をとるような提案型の要望活動を行っていただきたいなと私は思います、その点につい

ていかがでしょうか。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。教育長、自席でお願いします。

○教育長（福田世喜君） ただいまの再々質問にお答えいたします。

県に対して六郷高校をなくさないでほしいという一般論の要望は常にできることであると思います。町の立場として。

ただ、その魅力化のところで、例えば普通科をこうしたいいいのでないかとか何かしら対策をとってほしいという要望を出すときには答弁で述べましたけれども、主体としての六郷高校の校長先生はじめ教職員がどのように考えているのかを十分踏まえて、そこでお互いに共通確認して要望しなくてはならない、そうしないとうまくいきません。高校側が納得してないものを教育委員会なり町が県教育委員会へ要望しても動いていきません。そういうところを先ほどの答弁では大事だということで、六郷高校の意思を確認して、その上で協力していきましょうということを考えているところであります。

○議長（澁谷俊二君） これで、3番、鈴木正洋君の一般質問を終わります。